義務教育課だより　３月号

一斉臨時休業からスタートした令和２年度も、いよいよ最後の月となりました。「コロナ」という言葉をマスコミが盛んに取り上げるようになってからというもの、私たちの日常は一変しました。学校生活も、大きく変わりました。「世界の劇的な変化とは、このようなものか…」と実感した人も多いのではないでしょうか。

目の前に迫った令和３年度は、これまでに何度も触れてきたように、「高度ＩＣＴ化元年」となります。まだ先のことのように感じていた「ＧＩＧＡスクール構想」が一気に現実のものとなり、今月末には、全国ほとんどの小中学校で、１人１台端末環境が整う運びとなっています。

各市町、各学校におかれては、新年度からの円滑なＩＣＴ活用を見据え、ハード、ソフト両面の準備を急ピッチで進めて来たことと思います。特に、ソフトの面では、消毒作業等と並行しての研修時間の確保に苦労されたのではないでしょうか。

県教育委員会においても、補正予算を組み、10 月から２月にかけて、民間企業の講師によるオンライン研修の場を提供しました。加えて、これも 10 月から、小学校から高等学校までを見通した「愛媛県ＩＣＴ教育推進ガイドライン」の作成に着手しました。本ガイドラインは、まもなく完成する予定です。

そこで今月は、「ガイドライン」と本サイトに掲載中の「ＩＣＴ活用実践事例」について、その概要等を紹介します。

１　「愛媛県ＩＣＴ教育推進ガイドライン」の概要

⑴　数値目標達成スケジュール

2021 年度からの３か年で、児童生徒、教職員それぞれの達成数値目標と、教育委員会の支援について具体的に示しています。

【一例】

		Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度
児童生徒の ICT 活用スキル向上	ウェブ会議システム又はクラウドサービスを使って協働学習をする児童生徒の割合	５０％	１００％	
教員による ICT 活用指導力向上	クラウドサービスを授業や家庭学習用教材に活用している教員の割合	６０％	１００％	

⑵　発達段階ごとのＩＣＴ教育プログラム

児童生徒が身に付けるべきＩＣＴ活用スキルを「ベーシックスキル」「コアスキル」「アドバンストスキル」の３段階に大別し、それぞれのスキルについて、どのような事柄ができるようになればよいかを、発達段階別に、Can-Do リストにまとめています。

【一例】

	小学校１～２年生	小学校３～４年生	小学校５～６年生	中学校
コアスキル	入力・操作スキル【文字入力】			
	○端末の機能を使って文字の入力ができる。	○キーボードでかな入力やローマ字入力ができる。	○キーボードを見ずに、キーボードでローマ字入力ができる。(1 分間で 30 文字以上)	○キーボードから十分な速さかつ正確さで文字入力ができる。(1 分間で 45 文字以上)

⑶　ＩＣＴ活用実践事例集

小・中・高・特別支援学校の本県における実践事例をダイジェスト版で紹介しています。

【一例】

【実践タイトル】ウェブ会議システムを活用した２校間及びＮＰＯ団体との交流

学校・学年	今治市立菊間中学校、大西中学校・１年	活用場面	導入・展開・まとめ
【教科】科目	【社会】	単　元	世界の諸地域　アフリカ州
活用するＩＣＴ機器	パソコン、タブレット	活用するアプリ	Zoom

実践内容（生徒の活動）

両中学校と東京都でガーナの自立支援に取り組む NGO 団体をオンラインでつなぎ、アフリカ諸国とどのような関わりを持つことが大切か、自分たちは何ができるか意見交換を行わせた。

実践内容（教員の支援）

交流後は、アフリカ諸国の歴史的背景についての学習を想起させ、高まった関心が社会貢献につながるように授業を構成した。

活用の効果

実際に活動している NGO の方の話を直接聞いたり質問したりすることにより、世界情勢について自分の課題として捉え、友達と意見交換を深めることができる。

活用時の留意点

NGO のような外部の人や他校とつながっての合同授業の際には、授業の進め方や指導教員の役割分担等を事前に十分行うとともに、機器等の不具合にも即時対応できるよう、シミュレーションを念入りに行う。

授業の様子（写真・参考資料）

菊間中学校での活動の様子

大西中学校での活動の様子

２　えひめ教職員ふれあい広場の「ＩＣＴ活用実践事例」について

ご案内のとおり、全ての市町立小中学校の事例、398 事例が掲載されています。電子黒板を活用した授業やアプリを活用した双方向型の授業実践など、400 に迫る事例は、正に多種多様です。本サイトでは、東・中・南予の小中学校別に実践事例を閲覧することができるようになっています。また、現在、愛媛県デジタルコーディネーターである森秀樹氏（※プロフィール等は、トップページに掲載）から、順次、各学校の実践に対するコメントを寄せていただいています。

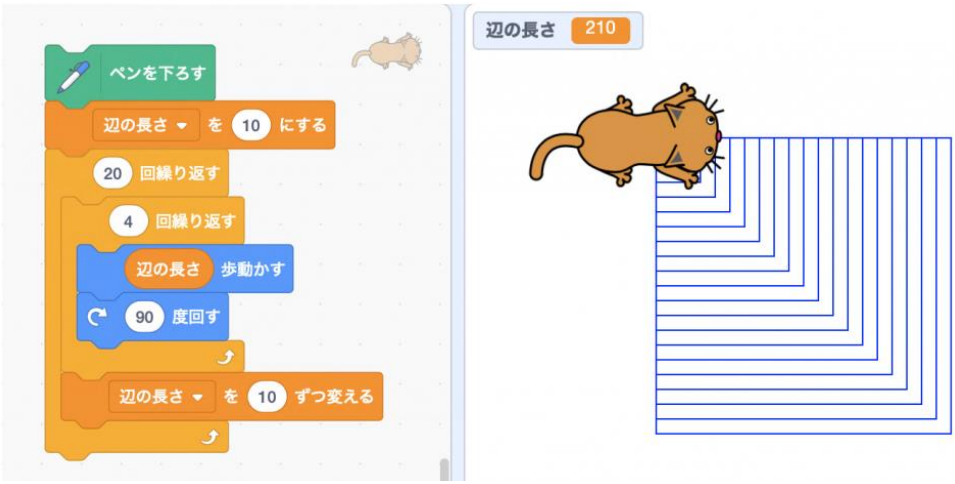
その一つ、今治市立九和小学校へのコメントを紹介します。

第６学年・算数科・「図形の拡大と縮小」

【本時のねらい】　拡大図・縮図の意味や性質を基に、必要な手順を組み合わせたプログラムを考えることができる。

＜森氏のコメント＞

拡大･縮図でのプログラミングの取り組み事例を紹介いただきありがとうございます。既に使われているかもしれませんが、スクラッチのキャラクターを上から見たものに変更すると図形を描く場合には分かりやすいかと思います。また、発展的な内容として、プログラムをつくれば児童で拡大（縮図）を繰り返しつくることができることを紹介すると、プログラミングへの興味もさらに高まりそうです。



森氏は、スクラッチの開発に携わった経歴をお持ちです。このコメントには、ソフト開発者だからこその知見が含まれています。コメントを読めば、授業におけるＩＣＴ活用の新しいイメージが広がるのではないでしょうか。

最後に、ＩＣＴは、これからの教育の絶対的な存在となる訳ではありません。これまでの実践とＩＣＴとのベストミックスを図っていくことが大切であることは言うまでもありません。個別最適化された学びや創造性を育む学びを実現するための手段として、ＩＣＴを効果的に活用することができるよう、チーム愛媛で、試行錯誤を積み重ね、よりよいスタイルを確立していきましょう。

なお、知事会見における記者発表のとおり、３月７日までとしていた県の「特別警戒期間」は、本日（１日）をもって終了となります。しかし、「感染警戒期」は続きます。年度末から年度初めにかけては、様々な行事が行われるとともに、感染拡大地域との往来が増え、感染リスクの高まりが予想されます。本県では、同じようなリスクがあった年末年始の行動が、その後の急激な感染拡大につながりました。各学校におかれては、引き続き、マスクの着用、手指消毒などの基本的な感染回避行動を徹底していただくよう、お願いいたします。